

⑤【新潟県立中央病院】

住 所	〒943-0192 新潟県上越市新南町205		病床数：530床
診療科目	内科（呼吸器、消化器、血液、腎・膠原病、内分泌、総合）、循環器内科、脳神経内科、小児科、外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、泌尿器科、皮膚科、麻酔科、放射線診断科、放射線治療科、精神科、リハビリテーション科、病理診断科、救急科、臨床検査科		
研修責任者名	長谷川 正樹（病院長）	連絡先：shomu@cent-hosp.pref.niigata.jp 025-522-7711（代表）	連絡先担当者名：神蔵 美月（庶務課）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成23年度：6人、24年度：5人、25年度：7人、26年度：7人、27年度：5人、28年度：5人、29年度：6人、30年度：5人、令和元年度：3人、2年度：3人、3年度：2人、4年度：2人 ・その他プログラム採用 平成23年度：9人、24年度：4人、25年度：5人、26年度：6人、27年度：6人、28年度：16人、29年度：17人、30年度：19人、令和元年度：18人、2年度：18人、3年度：17人、4年度：20人		
研修受け入れ可能診療科※		学会認定専門医数	学会認定指導医数
必修：内科（呼吸器・消化器・血液・腎臓・膠原病・内分泌・総合・循環器・神経）、小児科、産婦人科、外科（外科、救急部門、呼吸器外科、心臓血管外科） 選択研修：整形外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、放射線科、病理診断科、形成外科、眼科、麻酔科、皮膚科、小児外科		内科（内科）11人、内科（血液）3人、内科（呼吸器）5人、内科（消化器）5人、内科（腎臓）3人、内科（神経）3人、内科（循環器）4人、救急1人、小児科4人、産婦人科4人、外科（外科）10人、心臓血管呼吸器外科2人、小児外科1人、整形外科6人、脳神経外科3人、耳鼻咽喉科2人、泌尿器科3人、形成外科1人、麻酔科4人、放射線科5人、病理診断科1人	内科（内科）1人、内科（血液）2人、内科（消化器）1人、内科（腎臓）1人、外科（外科）3人、心臓血管呼吸器外科1人、耳鼻咽喉科1人、小児外科1人、泌尿器科1人、麻酔科1人、病理診断科1人、皮膚科1人、放射線科1人、産婦人科1人、整形外科1人、脳神経外科1人、小児科1人
施設の概説・特徴			
救命救急センターを併設した530床の上越地域の中核病院で、1日約1,000人の外来、約400人の入院患者の診療を行っている。救急車搬入患者数は年間約5,400件と救急診療を行う急性期病院の一方、がん診療連携拠点病院としてがん医療に取り組んでいる。また、新生児集中治療室を備えた周産期から新生児、小児医療の連携が生かされた病院として充実した病診連携のもとに診療を行っている。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：高度先進医療を取り入れ、救急から、がん診療、慢性期疾患、終末期医療にいたる地域の中核施設として、診療し、消化器内視鏡治療、PTCDなどの胆道系疾患の観血的治療、心臓カテーテル治療、血液透析治療、骨髄移植などの治療実績は県内でも有数。 外科◆：消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科に分かれて診療しており、どの分野も県内有数の手術件数と治療成績を誇っている。近年増加傾向にある乳癌患者の集学的治療や、消化器系の腹腔鏡手術、呼吸器系の胸腔鏡手術にも積極的に取り組んでいる。 小児科：指導医がマンツーマンに指導し、小児科医の診療を実践できる。 産婦人科：異常分娩の紹介や正常分娩も多く、様々な症例を経験できる。婦人科腫瘍の手術、化学療法、放射線治療も積極的に行っている。 小児外科：急性疾患、先天性疾患、悪性腫瘍などの小児領域の外科手術を行う。 心臓血管呼吸器外科◆：肺癌を中心とした呼吸器疾患の治療を呼吸器内科、放射線科と連携し行っている。心臓血管外科は、救急の大動脈瘤手術、冠動脈手術から、先天性心疾患、弁膜症手術などを県内有数の症例数で経験できる。 整形外科：骨折、外傷などの救急疾患、人工関節手術、脊髄疾患、骨悪性腫瘍の治療、マイクロサージェリー、リハビリなど。 脳神経外科：脳血管障害、頭部外傷などの救急診療に加え、脳腫瘍、特に下垂体腫瘍手術を行う、県下唯一の施設である。 耳鼻咽喉科：炎症性疾患、外傷などの救急疾患のみならず、県内でも数少ない悪性腫瘍の根治手術などを行い積極的に診療している。 泌尿器科：腎移植認定施設であり、通常の泌尿器科疾患に加え、悪性疾患の治療も積極的に推進している。 放射線科：診断部門は、CT、MRI、シンチ、血管造影、超音波診断ができ、治療部門は、CTガイド下の精密放射線治療が可能。 形成外科：麻酔科と連携し重症な熱傷の治療を行っている。 病理診断科：県内屈指の検体数の診断を行い、病理解剖、臨床病理カンファレンスも盛ん。電子顕微鏡あり。 救急部門：救急外来での救急搬送患者の診療にあたり、実践的なトレーニングを行う。挿管等は麻酔科とタイアップして研鑽する。 ACLSの指導、JATEC対応外傷コース実施。 麻酔科：全身麻酔の件数は県内有数で、終末期緩和医療も行う。手技も多く経験できる。			
研修の概説と特徴			
早期に救急外来の診療に対応できる技量の修得に努め、救急外来、救命救急センターでの診療で、十分な救急診療が経験できる。小児科と産婦人科の研修は、新生児医療を考え、可能な限り連続的に行っている。夜間、休日を問わず、必要時には、専門医のコンサルテーションをface to faceで行える全科拘束体制を敷いている。 臨床病理カンファレンスは、月に1回開催しており、その他の検討会は、各科の診療体制に従うようにしている。 研修医向けの講義は、週1回ずつ、事前のテーマに従い実施。月に1回程度、医局集談会や院内研修会で講演がある。			
研修医の当直			
救命救急センター当直として、外科系、内科系各1人と、本院当直1人の計3人が常時当直している。 研修医の当直は、1年次前半は副直で、1年次後半からは「研修医当直」として行い、内科系・外科系当直医師が指導医としてバックアップする。			
処 遇			
●給与：1年次（月額基本給）350,000円（諸手当）宿日直手当40,000円（月4回） 平均支給額 約490,000円（諸手当込） 2年次（月額基本給）400,000円（諸手当）宿日直手当80,000円（月4回） 平均支給額 約660,000円（諸手当込） 時間外手当：勤務時間外に診療行為を行った実働時間に対し支給 宿日直手当：1回につき、1年次 10,500円、2年次 21,000円 を支給 ●食事：院内食堂、仕出し弁当、売店での弁当販売、24時間営業のコンビニ、スーパーマーケットが近隣にある。 ●宿舎：借り上げ宿舎あり、住居手当あり（上限27,000円） ●居室：研修医専用医局あり、仮眠ベッド（研修医用）3床 ●図書・文献：医学中央雑誌、Up-to-date、Cochrane Library、NEJM、Blood、Chest、Circulation など ●インターネット環境：各個人の机からインターネット接続可能、Wi-Fiも完備			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆令和6年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。